



# 小田小だより

平成29年9月号

〒236-0052 横浜市金沢区富岡西1丁目69番1号

TEL 045(775)3011

<http://www-local.edu.city.yokohama.jp/sch/es/koda/>

横浜市立小田小学校

## 「啐啄同時」 そったくどうじ

～秋の空に舞う燕の親子に思いを寄せて～



学校長 木村 昭雄

この夏休みに兄の7回忌の法要のため田舎に帰省したときのことです。何気なく空に目をやると、玄関先の巣から燕(つばめ)の子が飛び立ちました。

狭い巣に5羽がひしめき合いながら親燕からの餌を奪い取るようにして育った子燕。いよいよ巣立ちのときを迎えたようです。大きく羽ばたいているのが子燕たち。スマートに飛んでいるのが親燕。木々の間をぬって飛ぶ親燕の後を、ぎこちなく飛ぶ子燕の列。電線で羽を休めながら何度も同じ飛び方をした後、さらに低空飛行を繰り返して親燕は夫婦で連携しながら、飛び方や餌の見つけ方を教えていました。

「啐啄同時(そったくどうじ)」という禅の言葉が浮かびました。

雛が卵から産まれ出ようとするとき、中から殻をつついて音をたてます。これを「啐(そつ)」と言います。そのとき、すかさず親鳥が外から殻をつつきます。これを「啄(たく)」と言います。そしてこの「啐」と「啄」が同時に行われ、つまり親子の共同作業があつてはじめて、殻が破れて雛の誕生となるのです。これを「啐啄同時」と言います。野鳥は巣立ちのときにも「啐啄同時」を発揮するというのです。親燕の一日のすべてが、ひたすら子燕に餌を運ぶことに費やされています。5羽の子燕を育てる献身的な姿は、人間の親に匹敵しそうです。

人間の一生にも、また子育てにも、「啐啄同時」の機会が何度かあると考えます。親の働きかけと子どもの自発性が一致したとき、教育効果があるわけですが、子育てにおいては燕の親子ほど明確にその時期が分かるというわけではありません。子どもを躰ける時期や自立させる時期に悩みながら、今だと思つて働きかけても、子どもの心に響かなかつたり、子どもが自分の力でやり遂げたいと思つても、心配な親が過干渉だったりということがあり、なかなかうまくいきません。どのようにしたら「啐啄同時」の時期を見極めることができるのでしょうか。

先日のことです。山下公園に向かう途中に大きな噴水があり、丁度「ザー」と水が噴き出しました。そばにいた男の子が大きな声で、

「おかあさん、おかあさん。見て見て、すごいよ。とつてもきれいだよ」

と指をさして言います。すると母親が、

「本当だ。噴水がとつてもきれいだね。」と言いながら、親子でその噴水をうっとり眺めていました。そのときの男の子の笑顔がとつても印象的でした。これも親と子の「啐啄同時」です。そのときもし、母親がメールをしていて見向きもしなかったらどうでしょう。それどころか、メールが終われば子供の手を引っ張って帰っていったとしたら……。

評論家の芹沢俊介さんは「授乳中も携帯電話のメールに熱中するような“空洞化”した母親が増えた。『死ぬ』『殺す』と叫ぶ幼児が目立つのも、こうした『いるのに、いない』親の影響が大きいのでは。」と世相を指摘しています。私も同感です。メールは決して悪いものではありません。しかし、時と場合が大切です。子どもが一生懸命に話をしているなら、感動を共有するだけでいいのです。そこに空洞感はありません。とつてもすてきな母と子の姿があるだけです。

人間社会は複雑すぎて名案などというものは無いのですが、子どもを十分に理解することに尽きると思えます。子どもの持ち味や体験の有無、心の有り様など、子どもの心身の発達の様子をいかに理解するかで、「啐啄同時」の時期が見えてくると思うのです。親が躰けるタイミングと子どもが納得するタイミングが合致したとき、親子の心が通じ合い、子どもは大きく成長するに違いありません。

燕の親子の関わりを見守りながら多くのことを考えさせられました。これは単に親と子どもの間だけのものではなく、世の中全ての人間関係においても同じことが言えると思います。この「啐啄同時」という意味深い言葉を少しでも意識して毎日を過ごせたらと思います。